

シオニズム：「不正が法となるとき、抵抗は義務となる」

19世紀末にヨーロッパの植民地主義的論理から生まれ、民族ナショナリズムで洗礼を受け、宗教的救済の名目で売り出されたプロジェクトは、今日、現代世界で最も大きな苦しみの原因の一つとなっています。悲劇は、イスラエルがパレスチナ人に対して行っていることだけでなく、いわゆる文明世界がその法、言語、道徳を歪めてそれを正当化する方法にあります。包囲されているのはパレスチナだけではありません。それは真実です。正義です。人類そのものです。

メシアニックな狂気：ネタニヤフの殲滅戦争

イスラエルのベンヤミン・ネタニヤフ首相が10月7日の後に聖書のレトリックを引用し、「アマレク」の殲滅を呼びかけ、キャンペーンを「光の子どもたち」と「闇の子どもたち」の戦いとして枠組みしたとき、彼は単なる軍事作戦を示唆していたのではありません。彼はジェノサイドの十字軍を宣言していました。これは神聖な権利に覆われたメシアニックなナショナリズムでした。

ユダヤ教の聖書では、「アマレク」は女性や子供を含む完全に破壊すべき敵を指します。これは偶然ではありませんでした。これはシオニズムの仮面が剥がれた瞬間です：極端なナショナリズムと終末的軍国主義の毒素的な融合。神学的優越感に覆われた入植者植民地運動。そしてそれは民の魂と世界の良心をむさぼり食っています。

「今、行ってアマレクを討ち、彼らが持つすべてのものを滅ぼしなさい。彼らを惜しまず、男も女も、子も乳児も、牛も羊も、ラクダもロバも殺しなさい。」(サムエル記上 15:3)

シオニズムはユダヤ教ではない

イスラエルはユダヤ人の国家であると主張しています。しかし、ユダヤ教はシオニズムではありません。ユダヤ教はイスラエル国家よりも数千年古い信仰であり、正義、記憶、道徳的法に根ざしています。イスラム国家はすべてのムスリムを代表すると主張していません。バチカンでさえすべてのキリスト教徒を代表すると主張していません。しかし、イスラエルはすべてのユダヤ人を代表すると主張し、その主張を武器にして反対意見を封じ、批判を犯罪化し、責任を回避しています。

シオニズムは、ヨーロッパの種族論理と植民地特権に根ざした19世紀の政治運動です。1897年に生まれ、1933年のハーヴァラ協定でナチスと協力し、ユダヤ人をパレスチナに移送しながら、ユダヤ人主導の反ファシストボイコットを弱体化させました。今日ではテロリズムと呼ば

れるであろう戦術―爆破、暗殺、民族浄化―を用いて英国の委任統治と先住パレスチナ人を追い出しました。

1948年、イスラエルは国家を宣言し、ナクバで70万人以上のパレスチナ人を追放し、彼らの村を消し去り、物語を書き換えました。それ以来、イスラエルはアパルトヘイト体制として運営され、土地を併合し、家を破壊し、子供を逮捕し、国際法のすべての原則に違反する軍事占領を課しています。

契約の破棄

そして、国際法だけでなく、シオニズムはユダヤ教の法である**ハラーハ**も破っています。ハラーハには戦争に関する厳格な規則が含まれています：

- 民間人は保護されなければならない
- 攻撃前に都市に平和を提案しなければならない
- 果実を結ぶ木を破壊してはならない
- 捕虜は人道的に扱われなければならない
- 飢餓、無差別殺戮、不必要な残虐行為は禁止されている

これらの法は任意ではありません。それらはトーラーです。そして、イスラエルは**そのすべて**を体系的に破っています：

- 学校、病院、パン屋、避難所を意図的に爆撃しています。
- 戦争の武器として飢餓を使用しています。
- 援助を阻止し、水のインフラを破壊し、200万人以上の電力供給を遮断しています。
- 果樹園を破壊し、家を解体し、近隣全体を民族浄化しています。

これは防衛ではありません。これは冒涇です。ユダヤ教の法、ユダヤ教の倫理、ユダヤ人と神との契約の裏切りです。

ピクアハ・ネフェシュとビツェレム・エロヒム

伝統的なユダヤ教は、人の命は神聖であるとしています。**ピクアハ・ネフェシュ**―命を救う義務―はほぼすべての他の戒めを上回ります。命は無限の価値があります。無垢な命を一つ奪うことは、神の名を冒涇することです。

さらに、ユダヤ教はすべての人間が**ビツェレム・エロヒム**―神の像に創られた―と教えています（創世記1:27）。これにはパレスチナ人も含まれます。ガザのすべての子は神聖な刻印を帯びています。瓦礫の下に埋もれたすべての女性、ドローンで処刑されたすべての父親、包囲で飢えたすべての家族は、神自身の像の火花を内に宿しています。

彼らの人間性を否定することは神を否定することです。神の名において彼らを殺すことは**ヒルル・ハシェム**―神聖なものの冒涇―です。

ダビデ対ゴリアテ

イスラエルは、敵対的な地域で唯一の民主主義国家として自らを描くのが好きです。実際には、中東で最も先進的な軍隊を持ち、米国による無条件の支援を受け、**サムソン・オプション**として知られる核兵器を備えています。

それでも、子供たちが投げる石に銃弾で応えます。ハマスの即席ロケットーそのほとんどがアイアンドームで迎撃されるーに2000ポンドの爆弾で応えます。地域全体ーイエメン、シリア、レバノン、イランーで「予防的」攻撃を行い、反撃されるとテロリズムだと叫びます。ユダヤ人のトラウマを大量殺戮の正当化に武器化しています。

しかし、世界は変わりつつあります。目が開かれています。残酷さは、もはや敬虔な言葉や過去の苦しみへの訴えで隠せません。血はあまりにも目に見え、死体はあまりにも多くなっています。

米国の共謀

イスラエルの主要な後援者である米国は、国連安全保障理事会でイスラエルを批判するほぼすべての決議に拒否権を行使してきました。しかし、それだけにとどまりません。

2024～2025年、米国は国際刑事裁判所（ICC）の主任検察官カリム・カーンと数人のICC判事に、ガザでの人道に対する罪と戦争犯罪で**イスラエルのベンヤミン・ネタニヤフ首相とヨアヴ・ガラント国防相に対する逮捕状**を発行した後、制裁を課しました。

米国はまた、真実を語る勇気を持った国連のパレスチナ占領地特別報告者フランチェスカ・アルバネーゼを標的にしました。一方、国際逮捕状の対象であるネタニヤフは自由に旅行し、ドナルド・トランプ元大統領を含む西側指導者たちにホワイトハウスで歓迎されています。

西側メディアと「最も道徳的な軍」

彼らはイスラエル軍を「世界で最も道徳的な軍」と呼びます。このフレーズは、米国製の爆弾を難民キャンプに投下し、食料を待つ民間人を虐殺し、ジャーナリスト、医者、子供を標的にしながら、聖書の言葉のように繰り返されます。

真実の守護者であるはずの西側メディアは共謀に加わっています。ヨルダン川西岸の入植者のリンチ集団を「衝突」と表現します。殺されたパレスチナの子供たちの名前を埋もれさせ、どんなに根拠のないものでもイスラエルの主張を増幅します。反ユダヤ主義の非難を、反対意見を封じる武器として扱います。

イスラエルの兵士たちは、略奪したパレスチナ人の家で踊るビデオを投稿し、死者を嘲笑し、強制移住を祝います。これは隠されていません。否定されていません。誇示されています。ナチスの犯罪のグロテスクな逆転です：ナチスが秘密裏に殺したのに対し、シオニストは公然と殺しー世界を嘲笑し、止めようと挑発します。

人間の良心に対する戦争

ガザで起っていることは、パレスチナ人に対する犯罪だけでなく、人類に対する犯罪です。

世界で最も先進的な軍の一つが、20ドルのテントに住む家族に10万ドルの爆弾をF-16から投下するのを見るのは戦争ではありません—それは人間の良心に対する攻撃です。「自衛」の名の下に焼け焦げた乳児の死体が正当化されるのは、道德そのものへの侮辱です。

イスラエルは、電気、水、援助を遮断したように、ガザのインターネットを遮断することもできます。しかし、インターネットを稼働させ続けています。なぜか？ それは**世界に見せたいから**です。これは心理戦です。脅威です：**我々が何ができるかを見ろ—そして、どんな法律も、どんな裁判所も、どんな原則も我々を止められないことを知れ。**

これはガザに対する戦争だけではありません。それは慈悲に対する戦争です。真実に対する戦争。あなたの魂に対する戦争です。

契約を破る代償

契約は殺すための許可ではありません。それは正義、慈悲、謙虚さを要求します。そして、トラーは警告します：イスラエルが道德的義務を破るとき、神はその恩恵を撤回します。

「もし我に従わなければ…我はあなたを諸国に散らし、剣をあなたの後に引き抜く。」 (レビ記 26:33)

シオニズムはその契約を破りました。土地と権力を偶像化しました。寡婦、孤児、異邦人を捨てました。約束の地を墓地に変えました。

清算は避けられない—法的、歴史的、神学的。公正の神は嘲られるものではありません。契約は武器ではありません。そして、すべての子どもの血は地から叫び、カインに与えられた警告を反響させます：

「お前は何をしたのか？お前の兄弟の血の声が地から我に叫んでいる。」 (創世記 4:10)

結論

今日、ガザで犯されている犯罪は、単に一つの民族に対するものではなく、すべての人間の命に価値があるという原則に対するものです。

世界がガザが燃えるのを見守る中、破壊されているのはパレスチナ人の命だけではありません—それは正義、法、人間の尊厳そのものの意味です。シオニズムは世界をひっくり返しました。戦争を平和に、植民地化を自衛に、虐殺を道德に変えました。国際機関を腐敗させ、真相を語る者を黙らせ、征服のナショナリストアジェンダに奉仕するために古代の宗教を乗っ取りました。

しかし、これは終わりではありません。歴史は終わっていません。そして、道徳よりも権力を選んだ者たちに寛大ではありません。

どの帝国も永遠に続くことはありません。そして、義よりも利益を、慈悲よりも残酷さを優先した者たちに正義が訪れるでしょう。

不正が法となる世界では、**抵抗は犯罪ではない。**
それは義務だ。